

令和7年度高知県学力定着状況調査の公表に係る県教育長コメント

令和8年2月17日

高知県学力定着状況調査は、児童生徒一人一人の学習課題の改善状況を把握し、課題に適切に対応することを通して基礎的な学力をしっかりと定着させることを目的として、小学校第4・5学年及び中学校第1・2学年を対象に実施しています。

小学校については、全教科で目標値を概ね達成し、一定の学力の定着が見られます。特に算数では、思考のプロセスを言葉や数式を使って論理的に説明する力に改善が見られます。一方、国語では、文章全体の構成を捉えることや、複数の情報を結びつけて「要旨」を捉えることに弱さが見られました。今後は、習得した知識を別の場面で活用できる「生きて働く知識・技能」に高めていけるよう、指導の充実を図ってまいります。

中学校については、国語と第2学年の社会科が目標値を達成しました。数学においても目標値に迫る成果が見られ、各学校における授業改善の歩みが着実に進んでいると捉えています。また、これまで課題が見られた英語は、目標値との差が、昨年度と比較して1年生で3ポイント、2年生で6ポイント縮まり、改善傾向にあります。しかし、場面や文脈に応じて Where や Whose などを用いた疑問文を書くことに課題が見られます。そのため、年度内において速やかに、語彙や文法の定着や、教師による適切なフィードバックと正確性の向上を図る指導を徹底してまいります。

児童生徒対象の質問調査では、「自分にはいいところがある」と回答した児童生徒は小・中学校ともに約7割に達しています。特に中学1年生の肯定的回答の割合は、前回調査より3.7ポイント増加しました。また、「先生にほめられたり、頑張りを認められたりしてうれしかった」と回答した児童生徒も約85%と、高い割合を示しています。各学校において教職員が子ども一人一人の成長や頑張りに気づき、励ましを積み重ねてきた実践の成果として捉えています。

一方で、家庭での学習習慣の定着には大きな課題が見られました。中学2年生の23.8%が「平日に、授業以外に全く勉強をしない」と回答し、28.6%がSNS利用や動画視聴に1日4時間以上費やしていると回答しています。この現状は、学力の定着に影響を与えるだけでなく、心身の健やかな成長をも阻害する恐れがあると危惧しています。各学校は、早急に現状を把握分析し、生活習慣や学習習慣の定着に向けた取組について、年度内に児童生徒や保護者に働きかけていただきたいと考えます。

県教育委員会としましては、これまで実施してきた家庭学習の習慣化に向けた啓発を継続するとともに、校長会や保護者対象の研修会等を通じて、その意義を発信してまいります。併せて、各学校が作成する次年度の学校経営計画に「授業と授業外学習の一体的な推進」を明確に位置付けるなど、県内全域で組織的な指導体制が構築されるよう、取り組んでまいります。

本調査で明らかになった課題の改善には、市町村教育委員会、学校、家庭の連携が不可欠です。各市町村教育委員会や学校においては、調査結果に基づき、児童生徒の確実な学力補完とさらなる授業改善、および年度内の生活習慣・学習習慣の改善に向けた働きかけをお願いいたします。

各ご家庭においては、返却される個人票を一緒に確認し、お子様の頑張りをまずは温かく褒めてあげてください。そのうえで、日々の学びを支える環境づくりと、適切な生活リズムの確保に向け、より一層のご協力をお願い申し上げます。

県教育委員会としても、市町村教育委員会と連携し、各学校の組織的な学力向上サイクルが定着するよう継続的に支援してまいります。こうした取組を通して、児童生徒に確かな学力の基盤となる基礎・基本の徹底を図るとともに、AIなどのデジタル技術を効果的に活用した授業改善や授業外学習を推進し、時代に即した学びの形を追求してまいります。

高知県教育長 今城 純子